

J **apanese text**

2017年 春/夏号 日本語編



毎日がお祭り!
夏祭り日めぐりカレンダー

イラスト=フクイヒロシ
文=清水千佳子、編集部
監修=山本哲也

p.042

慰霊や鎮魂といったしめやかさと、華やかさやエネルギーの爆発とが絶妙に混在する日本の夏祭り。年間全国 30 万件はあるというお祭りから、お祭り評論家・山本哲也さんがオススメする、行って、見て、毎日楽しめる夏祭りを一日 1 件、1 カ月分ピックアップしました。

記載の日程は 2017 年のものです。
祭りの日程は天気その他の事情で前後することがあります。
必ずホームページなどで事前にご確認ください。

山本哲也 (やまもと・てつや)

学生時代から全国 200 カ所以上の祭り・イベントをめぐる。情報処理専門学校教員の傍らお祭り原稿を執筆、編集プロダクション勤務、トラベルライターを経て、「お祭り評論家」に。テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、Web など活躍中。祭りの担い手目線・学者目線ではなく、参加者・見物人の視点から、祭りの情報・楽しさ・奥深さなどを伝え続けている。
www.yamamototetsuya.com

●**祇園祭 (ぎおんまつり)**

京都の夏は祇園祭抜きには語れない。毎年 7 月 1 日から 31 日まで、1 カ月にわたり行われ、京都市内は祇園祭一色となる。9 世紀に始まり、京都の歴史と共に中断と再興を重ねながら発展してきた。最もよく知られるのは 17 日の前祭と、2014 年に復活した 24 日の後祭で、「動く美術館」ともいわれる絢爛豪華な山鉾が街中を巡行する (写真) ほか、八坂神社の神輿渡御も行われる。宵山 (14 日～16 日、21 日～23 日) には旧家や老舗店舗で屏風などの宝物披露も行われ、見て歩くだけでも楽しい。

7/1 ~ 31

京都市の四条堀川を中心とした地域から八坂神社までの一帯
www.gionmatsuri.or.jp

(写真)
© 田口葉子 2011 年

p.044

●**風鈴まつり (ふうりんまつり)**

祭りが催されるおふさ観音は健康を授ける寺。夏に厄払いのお参りをする風習がある土地柄、その参拝客をもてなそうと 2003 年に住職が始めた。境内のいたるところに風鈴 2500 個以上が吊され、古来魔除けになるとされてきた涼しげな音色を奏でる。境内奥の茶房では日本各地の風鈴の展示会を開催。ここで日本庭園を眺めながら夏期限定のかき氷を味わうのもいい。約 90 種類の風鈴が並ぶ即売会もある。入場は無料、本堂内の拝観は 300 円。

7/1 ~ 8/31

おふさ観音 (高野山真言宗別格本山 観音寺)
奈良県橿原市小房町 6-22
近鉄・大和八木駅、近鉄・橿原神宮前駅よりそれぞれタクシーで 10 分
www.ofusa.jp

●**仙崎祇園祭 (せんざきぎおんまつり)**

古くからの漁村・仙崎の八坂神社で 1219 年から続く伝統ある祭り。メインは 7 月 20 日と 26 日で、祇園囃子を奏でる笛、太鼓、鉦の奏者と、華やかに着飾った舞子たちが乗る山車が町を練り歩く。しばらくの中断を経て近年復活した祇園囃子は、昨年初めて若い女性が篠笛の奏者として加わったのが話題。舞子は地元の幼稚園や小学校に通う少女たちで、三味線に合わせて踊る姿が愛らしい。19 日と 25 日は前夜祭が行われる。

7/19 ~ 26

八坂神社 (山口県長門市仙崎祇園町 1342) 及びみすゞ通り周辺
八坂神社は JR 山陰本線・仙崎駅から徒歩約 4 分

(写真)

◎長門市観光コンベンション協会

●弥栄神社の鷺舞(やさかじんじあのさぎまい)

津和野町の鷺舞は470年ほど前、京都から山口を経由して伝えられたといわれる疫病鎮護のための古典芸能神事。町民によって大切に継承され、毎年、弥栄神社大祭の7月20日と27日に町内の複数の場所で披露される。鷺舞は鷺舞役者、悪魔払いをする赤毛の棒振、道化師役でバチを持って舞う羯鼓からなる舞方と囃子方、唄方からなる。雌雄2羽の鷺が大きく羽を広げて舞う姿は風趣に富む。1958年に始まった小学生の少女たちによる「子鷺踊り」もお見逃しなく。

7/20、27

弥栄神社(島根県津和野町後田稲成丁)及びその周辺

弥栄神社はJR西日本山口線・津和野駅から徒歩15分

(写真)

◎高野 淳

●豊橋祇園祭(とよはしぎおんまつり)

祭り初日の金曜日に行われる「神前放揚しんぜんほうよう」が有名。手筒花火発祥の地・吉田神社で450年以上続く手筒花火の奉納のことで、火による悪霊放逐という考えが根底にあるといわれる。手筒花火は節を抜いた孟宗竹もうそうちくの中に火薬を詰めたもので、花火を上げる人たちが自ら2カ月かけて準備。激しく火を吹く手筒花火を脇や腰で抱えて打ち上げる姿は勇壮だ。大小合わせて約300本が奉納される。土曜日の豊川河川敷の花火大会、日曜日の神輿の渡御も見所。

7/21～23

吉田神社

愛知県豊橋市関屋町2

豊橋鉄道東田本線・札木駅より徒歩で5分

www.toyohashigion.org

(写真)

◎Norihisa Ishibashi (Toyohashi Gion)

p.045

●尾張津島天王祭(おわりつしまてんのうまつり)

日本三大川祭りのひとつで600年以上の歴史を持つ。7月22日の宵祭では、一年の日数365個の提灯を半球状に飾り付けた舟5艘を川に浮かべ、その上で古楽を奏でる。提灯の灯りが川に映り、荘厳で幻想的だ。23日の朝祭(写真)では宵祭の5艘が等身大の能人形を載せた車楽舟だんじりぶねに模様替え。新たに加わった1艘とともに川を進む姿は雅な時代絵巻を見るよう。先頭の舟から10人の若者が締め込み姿で川へ飛び込んで岸へ渡り、津島神社まで走って神前ぬのほこに布鉾を奉納する様子も見所だ。

7/22、23

津島神社 愛知県津島市神明町1

天王川公園 津島市宮川町1

どちらも名鉄・津島駅より徒歩約15分

www.tsushima-kankou.com

(写真)

◎津島市観光協会

●豊浜鯛まつり(とよはまたいまつり)

竹と木からなる骨格に木綿を巻いて作った重さ1トン超の鯛神輿が街中や海を進む奇祭。1885年頃、祭礼に興を添えようとハツカネズミのはりぼてを作ったのが最初といわれ、大正初期に大鯛になった。メインの須佐地区の見所は、御仮おかり屋前の広場で、4尾の鯛が奉納時に棒に向かって猛進する勇壮な姿。22日の夜は花火大会があり、浜に並んだ鯛と花火を一緒に見るのも面白い。中洲地区では祭り最大の鯛を男たちが担いで海を練る様子が見所だ(写真)。

7/22、23

愛知県知多郡南知多町 須佐地区・豊浜漁港周辺

23日は中洲地区・中洲漁港周辺でも開催

須佐地区の豊浜漁港へは名鉄河和線・河和駅より

海っ子バス豊浜線で約20分の豊浜で下車

oina-toyohama.net/taimatsuri

(写真)

© 豊浜観光協会

p.046

●うわじま牛鬼まつり (うわじまうしおにまつり)

ハイライトは7月24日で、闘牛大会や牛鬼パレードが行われる。牛鬼は悪魔を追い払うとされ、地元の子どもの人気者。市内では守り神として牛鬼の頭部のレプリカを飾っている家も多い。5メートルの巨体を持つ牛鬼が数十人の若者に担がれ、子どもたちが吹き鳴らす竹ぼら(竹筒状の楽器)のブーブーという音を従えて練り歩く姿は迫力満点。祭りの最後を飾る走り込みは300年以上続く和霊神社の伝統行事で、須賀川に立てられた1本の御神竹を若者が登るシーンは感動的だ。

7/22 ~ 24

愛媛県宇和島市 JR 四国予讃線・宇和島駅周辺

牛鬼パレードの出発点までは宇和島駅より徒歩約10分

ushioni.gaina.ne.jp

(写真)

© 宇和島市

●天神祭 (てんじんまつり)

天神さんの名で親しまれる大阪天満宮で951年に始まった歴史ある祭り。25日の夜は大阪市内を流れる大川を約100隻の船が航行する船渡御が行われ、その上空を約5000発の奉納花火が上がる。船の篝火と提灯の灯り、花火が水面を照らす様子は華麗でドラマチック。

7/24、25

大阪天満宮(大阪市北区天神橋2-1-8)周辺と桜之宮公園(大阪市北区天満1)付近

www.tenjinsan.com

(写真)

© 大阪天満宮

●御手洗祭 (みたらしまつり)

世界遺産の下鴨神社境内にある御手洗池に足をつけ、心身を清め、無病息災や安産、災厄拔除を祈る祭り。平安貴族が行っていた禊ぎの風習に由来する。池に入って御手洗池の前まで進み、祭壇に蠟燭を供え、池から上がってご神水をいただく。午前6時~午後9時、灯明料300円。

7/22 ~ 30

下鴨神社

京都市左京区下鴨泉川町59

●おりもの感謝祭 一宮七夕まつり

織物の神様に感謝し、一宮市の基幹産業である繊維産業の繁栄を祈る祭り。真清田神社、一宮駅周辺、本町商店街一帯にカラフルな吹流しが飾られ、毎年約100万人以上の目を楽しませている。29日には全長300メートルの大行列で特産の織物を奉納する「御衣奉獻大行列」が行われる。

7/27 ~ 30

真清田神社(愛知県一宮市真清田1-2-1)など市内一円

www.138ss.com/tanabata_bunner/index_tanabata.html

(写真)

© おりもの感謝祭一宮七夕まつり協進会

●北海へそ祭り (ほっかいへそまつり)

北海道の中心、「へそ」ともいわれる富良野市。夏はラベンダーが咲き乱れるこの町には、不思議な踊りで有名な夏祭りがある。二日にわたって開催されるこの祭りの見所は、両日19時~20時に行われる「北海へそ踊り」。囃子と呼ばれる顔をお腹に描き、延べ3000人の踊り手が会場内を練り歩く。一人からでも飛び入り参加が可能だ。

7/28、29

北海道富良野市 JR 富良野駅そば

新相生通り商店街特設会場

www.furano.ne.jp/hesomatsuri

●おたる潮まつり（おたるうしおまつり）

3日間で100万人超が市内外から集まる「おたる潮まつり」。港町として有名な小樽市らしく、港関連の催しが多い。29日はこの祭のメイン、各グループが踊りながら港までパレードする「潮ねりこみ」を開催。観光客は「とびいりDE踊り隊」への参加がおすすめ。30日は漁師たちが海上パレードを行う「潮わたり」（写真）や神輿パレードが行われ、大花火大会にてフィナーレ。

7/28～30

北海道小樽市

小樽港第3号ふ頭基部ほか市内中心部

otaru.ushiomatsuri.net

●住吉祭（すみよしまつり）

大阪の夏をしめくくる住吉大社の夏祭り。7月30日の宵宮祭よいみやさいは本殿で神様の御霊みたまをお神輿うつに遷す神事、遷霊祭せんれいさいを見学できる。31日の夏越祓神事なごしのはらえでは参拝者も参加してお祓いをしてもらえる。8月1日の神輿渡御そりほしでお神輿が反橋の上や川中を進む様子は一見の価値あり。

7/30～8/1

住吉大社

大阪市住吉区住吉 2-9-89

www.sumiyoshitaisha.net/calender/natu.html

（写真）

©住吉大社

●早池峰神社例大祭（はやちねじんじゃれいたいさい）

修験山伏たちが舞い継いできたといわれ、現在でも岩手・花巻を代表する伝統芸能である、早池峰神楽。能が大成する以前の民間芸能の要素が残るとして、国指定の重要無形民俗文化財やユネスコ無形文化遺産に登録されている。この神楽を見られる絶好の機会が早池峰神社の例大祭。7/31は宵宮で18時から、8/1は13時半からそれぞれ境内で神楽が奉納される。

7/31、8/1

早池峰神社

岩手県花巻市大迫町内川目 1-1

www.kanko-hanamaki.ne.jp/en/cultural/

（写真）

©小原順次、花巻観光協会

●盛岡さんさ踊り（もりおかさんさおどり）

神様に退治された鬼が逃げていくのを「さんさ、さんさ」とはやしたのが始まりとされ、現在では4日間で1万3000人以上が和太鼓を叩きながら踊る。パレードのあとは、誰でも参加できる輪踊りが繰り広げられる。特に8月4日は「和太鼓同時演奏」で世界記録をもつ「世界一の太鼓大パレード」と、「大輪踊りだい」で盛り上がる。毎晩18時～21時。有料観覧席一席2500円。

8/1～4

岩手県盛岡市県庁前中央通り

www.sansaodori.jp

（写真）

©盛岡さんさ踊り実行委員会

●長岡まつり（ながおかまつり）

広大な信濃川河畔で打ち上げられる大花火大会。川幅の広さを利用した横いっぱい広がる花火や、「正三尺玉」といわれる巨大な花火が特徴。花火は8月2日と3日の夜7時20分～9時10分まで。1945年の長岡空襲で亡くなられた方々の慰霊と長岡の復興を願って始まったため、現在も空襲の始まった8月1日の夜10時半には慰霊の白い花火が3発打ち上がる。

8/1～3

新潟県長岡市

花火は長生橋上流～大手大橋下流にかけて

nagaokamatsuri.com

(写真)

© 長岡まつり協議会

p.047

●秋田竿燈まつり (あきたかんとまつり)

大きいもので提灯 46 個、重さ 50kg にもなる竿燈を、手のひら、額、肩、腰で自在に操る妙技は迫力満点。その技を競う昼の妙技会もおすすめだが、夜、始まりの笛と共に蠟燭を灯された竿燈が一斉に立ち上がる瞬間は圧巻。演技を盛り上げる掛け声「ドッコイショードッコイショー」を一緒に発声しながら盛り上がりたい。また演技終了後の「ふれあい竿燈」では竿燈に触ったり、一緒に写真を撮ったりできる。妙技会の合間に、実際に小さな竿燈を持ち上げる体験ができるコーナーも。

8/3 ~ 6

秋田市竿燈大通り

JR 秋田駅西口より秋田市役所方向へ徒歩 15 分

www.kantou.gr.jp

●八戸三社大祭 (はちのへさんしゃたいさい)

約 300 年の歴史と伝統を誇る、絢爛豪華な夏祭り。毎年趣向を凝らして作られる神話や歌舞伎をテーマにした 27 台の山車の合同運行と、おがみ神社・長者山新羅神社・神明宮の三神社の古式ゆかしい神輿行列が見所 (ともに 8 月 1、3 日)。高さ 10 メートルにもなる山車が通るたび、沿道では大きな歓声があがる。8 月 4 日、18 時から始まる後夜祭では山車が一堂に会し、盛大なお囃子を BGM にライトアップされる。

7/31 ~ 8/4

青森県八戸市中心街

hachinohe-kanko.com/english/10stories

●弘前ねぶたまつり (ひろさきねぶたまつり)

約 80 台の勇壮な「ねぶた」が、城下町弘前を練り歩く。東

北で数あるねぶた、もしくはねぶたまつりのなかでも、前後に描かれた絵の対照が魅力的な「扇ねぶた」(写真)は弘前ならではのもの。人形型の「組ねぶた」とともに、笛や太鼓のお囃子にのせて運行される。1 ~ 6 日は夜 7 時から、最終日の 7 日は朝 10 時から運行予定。

8/1 ~ 7

青森県弘前市 JR 弘前駅前・土手町周辺

www.hirosaki-kanko.or.jp/en/edit.html?id=edit11

●立佞武多祭り (たちねぶたまつり)

高さ約 23 メートルもの圧倒的に巨大な山車 (立佞武多) が青森県五所川原の市街地を練り歩く。3 台の大型立佞武多のほか、中、小型のねぶたと合わせ、15 台前後が出陣。五所川原市はこの高さの立佞武多を運行させるために運行ルート上の電線を地中に埋めたほど。祭り期間前の「立佞武多の館」では、実際に祭りで使う立佞武多の紙貼り体験 (4 月下旬 ~ 6 月中旬予定) もできる。

8/4 ~ 8

青森県五所川原市市街地

www.go-kankou.jp/matsuri_event/tachineputa.html

●青森ねぶた祭 (あおもりねぶたまつり)

「参加できる祭り」として数多くの祭りファンを生んできた青森ねぶた祭。「跳人」と呼ばれる踊り子たちが、芸術的な大型ねぶたと共に跳ね踊り、祭りを盛り上げる。運行ルート付近や市内デパートにて衣装を購入・レンタルすれば、観光客でも跳人になれるのが最大の魅力。8 月 6 日の夜間運行が最も盛り上がるが、7 日最終日の海上運行もおすすめ。青森港をねぶたが周遊する幻想的な様を、1 万 1000 発の花火とともに観覧することができる。

8/2 ~ 7

JR 青森駅周辺

www.nebuta.or.jp

(写真)

© 青森観光コンベンション協会

p.048

●管絃祭 (かんげんさい)

世界遺産の^{いつくしま}厳島神社最大の祭。平安時代の貴族が池や川に舟を浮かべて楽しんだ「管絃の遊び」を、厳島神社を修造した平清盛が神事として執り行うようになったのが始まり。本殿からご祭神を御座船^{ござふね}に遷して地御前神社など4か所の摂社を巡り、祭典と管絃を奉奏したのち本殿へ戻る姿は壮麗で心を打つ。遊覧船から観賞することも可能（有料、要予約）。午後4時～午前0時。

8/8

厳島神社 (広島県廿日市市宮島町 1-1) 及び周辺
www.miyajima.or.jp/event/event_kangen.html

(写真)

© 新谷孝一

●ぼんぼり祭 (ぼんぼりまつり)

文化的な町として知られる鎌倉の、夏の風物詩ともいえるお祭り。鎌倉近在の文化人や、各界著名人が揮毫した書画約400点がぼんぼりに仕立てられ、鶴岡八幡宮の参道や境内に掲揚される。夕刻になるとぼんぼりに灯りがともされ、境内は夜まで賑わう。朝9時（初日は昼）から夜8時半まで。期間中は俳句や短歌の会も開催。

8/6～9

鶴岡八幡宮
 神奈川県鎌倉市雪ノ下 2-1-31
www.hachimangu.or.jp

●よさこい祭り

踊り子が両手に持った鳴子^{なるこ}を響かせながら踊る、南国高知の情熱的な祭り。メインは8月10、11日の本番日で、約

200チーム1万8000人の踊り子たちが、午前11時から午後10時まで乱舞する。衣装、音楽、振付までチームごとに趣向を凝らし、大勢が一糸乱れず踊る姿は圧巻。音楽奏者の舞台となる「動く檣^{やぐら}」地方車も祭りを盛り上げる。

8/9～12

高知市の中央公園 (高知市帯屋町 1-11) やアーケード街など16カ所のステージ
www.cciweb.or.jp/kochi/yosakoiweb

(写真)

© よさこい祭振興会

●三原やっさ祭り

1567年に戦国武将の小早川隆景が三原城を築いたことを祝って歌い踊ったのが始まりといわれ、8月11、12日は約7000人の踊り手が三原駅前周辺を「やっさ、やっさ」と歌いながら練り歩く。踊りの特徴は足の動きにあるが、決まった踊りの型はなく、三味線、鉦、太鼓、笛、四つ竹（竹製の打楽器）などの賑やかなはやしに合わせて思い思いに踊る様子は、見ている人をも楽しい気分させる。

8/11～13

広島県三原市 JR 西日本・三原駅周辺
www.yassa.net

●阿波おどり (あわおどり)

誰でも気軽に踊りの輪に入れるのが魅力の阿波おどり。リピーターも多く、毎年約120万人の人で賑わう。両手を上げ、右手と右足、左手と左足を同時に出す動きで踊る独特のスタイルで、豪快な男踊りとしなやかな女踊りの2種類がある。50人～300人ほどの踊り子からなるグループ^{れん}を連といい、それぞれの連に踊りの特徴や鳴り物の奏法などの流儀がある。白熱した踊りは午後6時から10時半まで続く。ぜひ踊りに参加して興奮を共有したい。

8/12 ~ 15

JR 西日本・徳島駅前周辺

www.awanavi.jp/feature/awaodori.html

p.049

●深川八幡祭り (ふかがわはちまんまつり)

正式には「富岡八幡宮例祭^{れいさい}」、またの名を「水掛け祭」ともいわれるこのお祭りは、沿道の観衆が神輿の担ぎ手にお清めとして盛大に水を掛ける、江戸時代から人気の祭り。担ぎ手と観衆が一体となって盛り上がり、江戸の粋を今に伝える。2017年は3年に一度の本祭にあたり、13日には氏子町の神輿50数基が隊列を組んで練り歩く。

8/11 ~ 15

富岡八幡宮とその周辺

東京都江東区富岡1-20-3

www.tomiokahachimangu.or.jp

●鳥取しゃんしゃん祭 (とっとりしゃんしゃんまつり)

見所は8月14日の一斉傘踊り。鳥取県東部に伝わる「因幡の傘踊り」を踊りやすくアレンジした「しゃんしゃん傘踊り」を約4200人の踊り子が披露する。傘の骨に取り付けられた鈴が「しゃんしゃん」となる音とともに、色鮮やかな和傘が揃って動く様子は胸が躍る。2014年には「最大の傘踊り」のギネス記録に認定された。体験コーナーで、踊り子が使用しているのと同じ和傘で傘踊りにチャレンジできるのも嬉しい。

8/13-15

JR 西日本・鳥取駅周辺

tottori-shanshan.jp

(写真)

© 鳥取しゃんしゃん祭振興会

●精霊流し (しょうろうながし)

初盆を迎えた家族が故人の霊を弔うために船を造り、その船

を曳きながら街中を練り歩いて極楽浄土へ送り出すという長崎の伝統行事。主に竹、板、わらなどで造られ、盆提灯や造花などで飾られた精霊船^{しょうろうぶね}は大小さまざまで、船首^{みよし}に家紋や家名、町名が大きく記される。当日は夕暮れどきになると、町のあちこちから「チャンコンチャンコン」という鐘の音と、「ドーイドーイ」の掛け声、爆竹の音が鳴り響き、行列は夜遅くまで続く。

8/15

長崎県長崎市市内中心部一帯

(メインストリートは思案橋～県庁坂～大波止)

visit-nagasaki.com/spots/detail/109

(写真)

© 長崎県観光連盟

p.050

●郡上おどり (ぐじょうおどり)

水とお城、美しい町並みで有名な郡上八幡に400年にわたって歌い踊り継がれてきた郡上おどり。かつての城主が身分を越えた融和を図るため、各村々で踊られていた盆踊りを城下に集めたことから始まった。そんな歴史からか観光客も地元の人もひとつの輪になって一緒に踊る。会場は一晚に一箇所ずつ、ひと夏で市街地を一巡。圧巻は徹夜踊りの夜明け近く、東の空が白々と明けゆく頃。歌い手と踊り手の息がピッタリと合い、お囃子と下駄の音、川のせせらぎが重なって山あい^{あいに}にこだまする。徹夜踊りは夜8時から朝4時まで。浴衣レンタルも有り。

7/8 ~ 9/2

(8/13 ~ 16は徹夜踊り)

岐阜県郡上市八幡町一帯

東海北陸自動車道：郡上八幡ICから約10分

長良川鉄道：郡上八幡駅下車

岐阜駅より岐阜バス高速八幡線：城下町プラザ下車

www.gujohachiman.com/kanko/index_e.html

(写真)

© 福田弘二 (ふくだこうじ)

p.051

もっと! 祭を楽しむ 5 力条

① できるだけ下調べを

せっかく行ったのに一番のハイライトを見そこねてしまった……などということのないように、できるだけ下調べをして出かけましょう。まずは公式サイトやYouTubeなどで祭りの情報をチェック。開催エリアの地図やタイムテーブルも出ていれば印刷します。祭りによっては有料観覧席があり、余裕を持って観たい人にはおすすめです。人気があるので予約する場合はお早めに。

② 移動と宿泊のポイント

会場への移動は公共交通機関の利用が基本。駐車場が限られていることや、祭りの終了後に渋滞することが多いためです。利用する電車やバスの時刻表を用意しておくで安心。また、人気の祭りの場合は周辺の宿が早くに満室になるので、泊まると決めたら速やかに予約を。周辺で予約が取れない場合は電車で30分くらいのエリア、たとえば京都の祭りなら大阪や滋賀の大津あたりまで範囲を広げて探してみましょう。

③ 夏祭りの服装と必需品

服装は基本的に何でもOKですが、靴は長時間歩いても疲れないものを選びましょう。砂利道や坂道を歩く会場もあり、ヒールは避けたほうが無難。クレジットカードが使えない場合が多いので、必ず現金の用意を。帽子、日焼け止め、扇子やうちわ、タオル、飲料水も必携です。熱中症対策のためにも水分の摂取は必要ですが、トイレが近くなるアルコール類は控えめに。会場のトイレはいつでも混んでいます! 山本さんは「お酒は祭りの後の楽しみにしています」と話します。

④ 当日はまず案内所へ

当日は時間に余裕を持って行動をしましょう。開始直前は交通機関も最寄り駅も会場も大変混雑します。現地に着いたらまず、駅や祭りの中心地にある案内所へ。祭りのパンフレットなどを入手し、天候などによる変更がないか最新情報もチェックします。そして、トイレや飲食物が買える場所を確認し、同行者とはぐれた際の集合場所も決めましょう。大勢の人が集中する会場では携帯電話やスマートフォンが通じない場合もあります。

⑤ 参加できるお祭りはぜひ参加を!

青森ねぶた祭や阿波おどり、郡上おどりなど、一般人が参加して踊ることができる祭りは、ぜひ参加して楽しみましょう。秋田竿燈まつりの竿燈体験コーナーのように踊り以外の体験ができる祭りもあります。せっかくなら、現地でレンタルできる衣装や浴衣を着て参加を。「いくつかの祭りへ行く予定があるなら購入するのもおすすめです。祭り気分が満喫できて、いい日本土産にもなります」と山本さん。